

小林CSTI議員提出資料

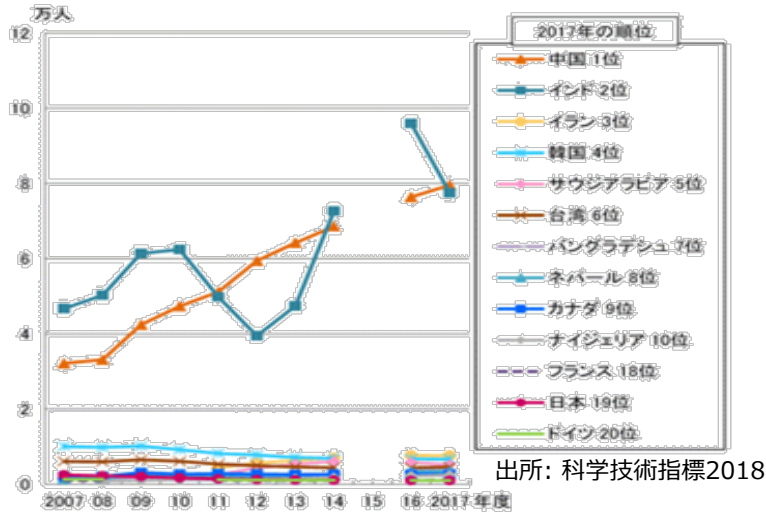


我が国の研究者の国際化の現状

米国における中国人 (79,580名)、インド人 (77,500名) 大学院生に対して、日本人大学院生は極端に少ない (990名)

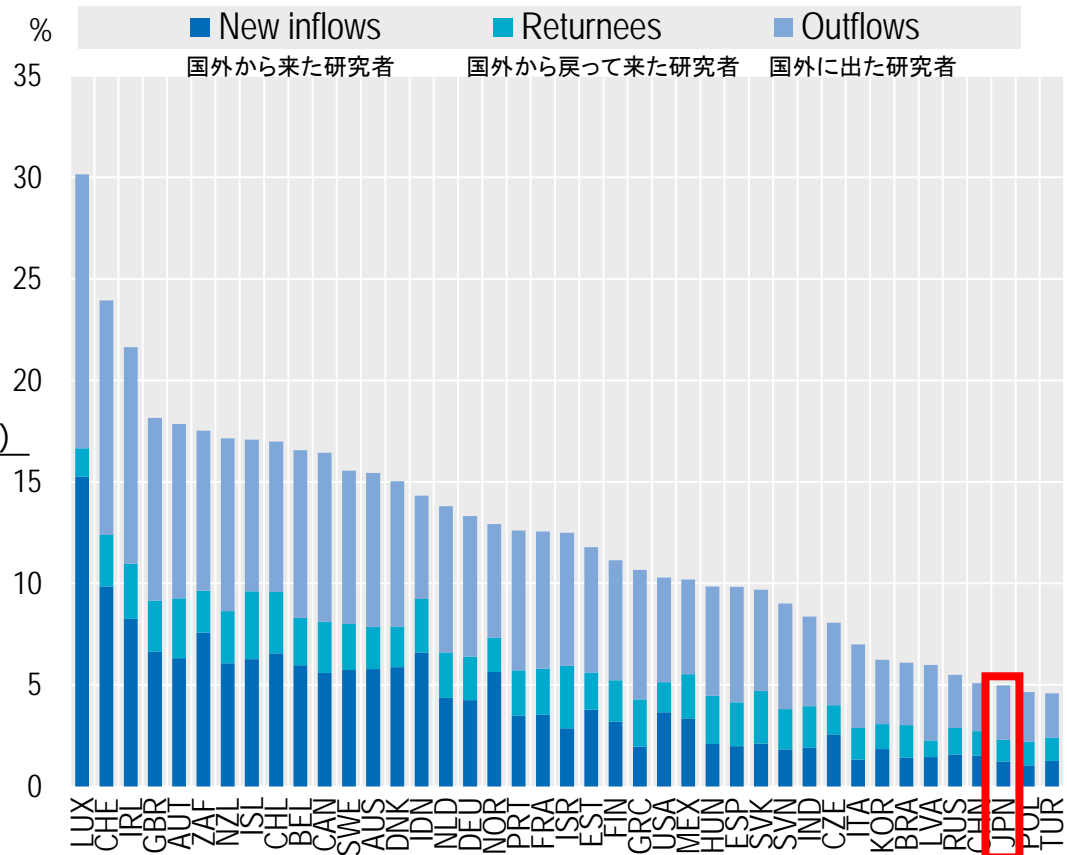
日本は多国間共著論文も極めて少なく、研究者の約95%は国内にとどまったまま。

米国における外国人大学院生の状況



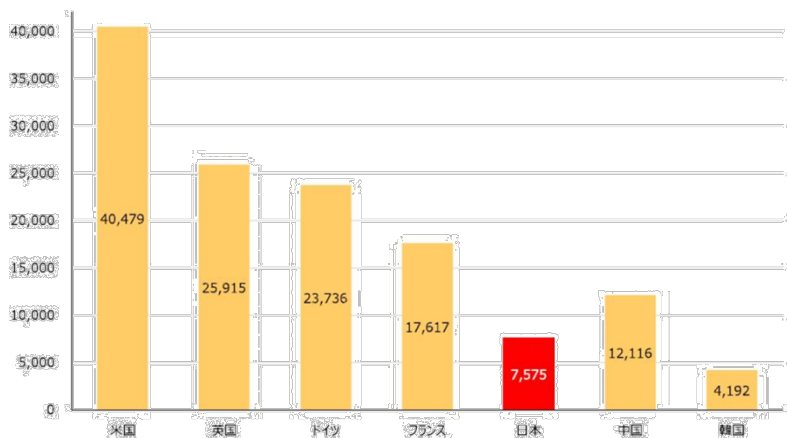
各国の科学論文著者の国際的な移動者状況の内訳(2016年)

International mobility of scientific authors, 2016
As a percentage of authors, by last main recorded affiliation in 2016



※Stayers (国内に留まっている研究者) を除く

多国間共著論文数の比較 (2013~15年公表論文)

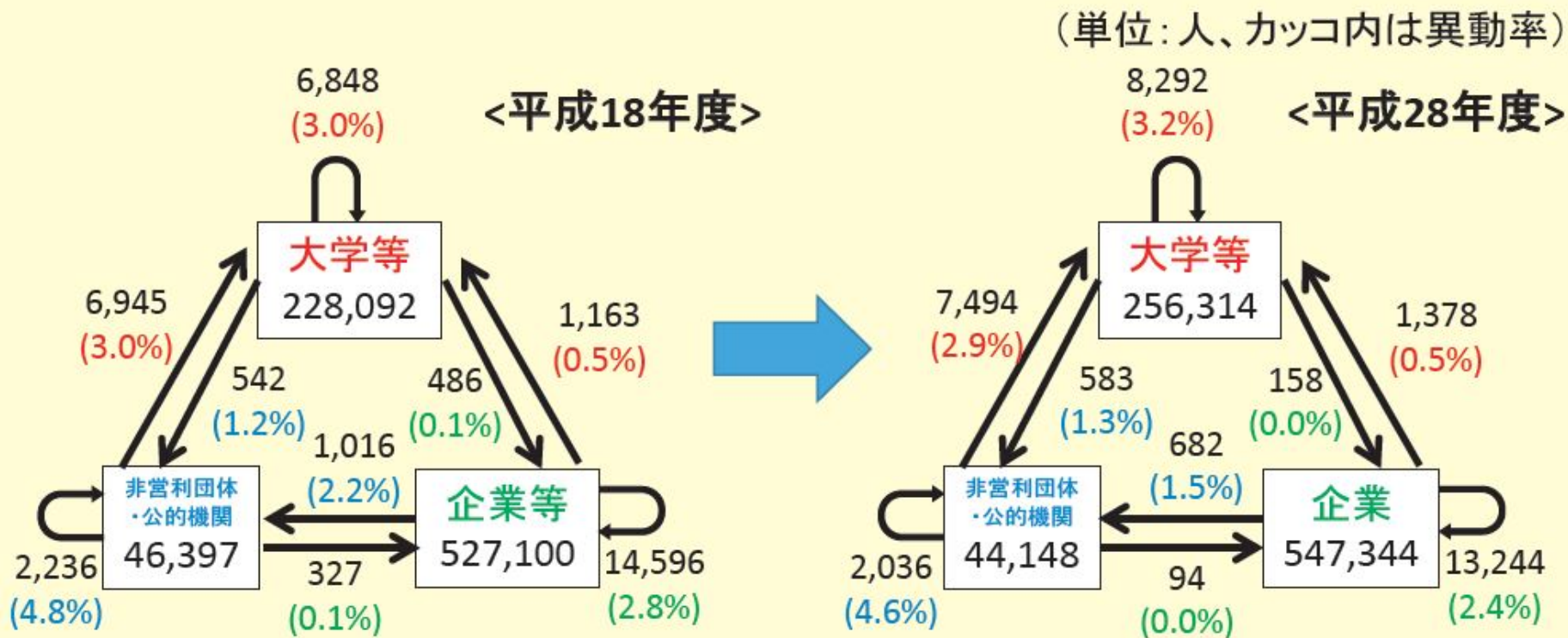


OECD Science, Technology and Industry Scoreboard 2015 を基に内閣府作成

我が国の研究者のセクター間異動の現状

日本でセクター間を異動した研究者の割合は、平成18（2006）年度と平成28（2016）年度を比較しても、同水準にとどまっている。

第1-1-71図 セクター間の人材流動性



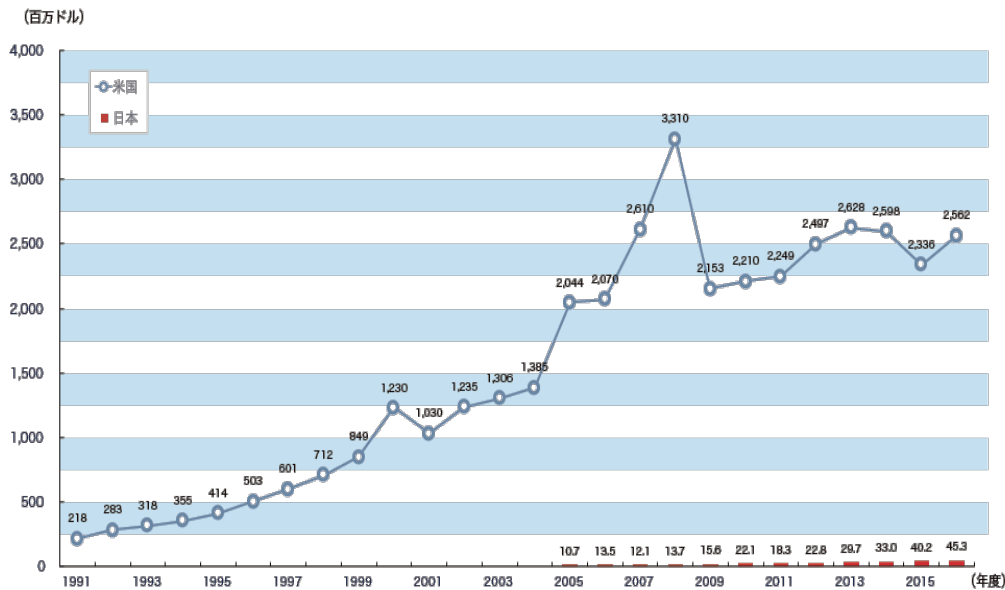
- 注：1. それぞれ年度末現在の実績（研究者数の実数）である。
 2. 異動率は各セクターの転入者数を転入先のセクターの研究者総数で割ったもの。
 3. 大学等は大学院博士課程の在籍者を除く。

資料：総務省統計局「科学技術研究調査」を基に文部科学省作成

我が国の産学連携の現状

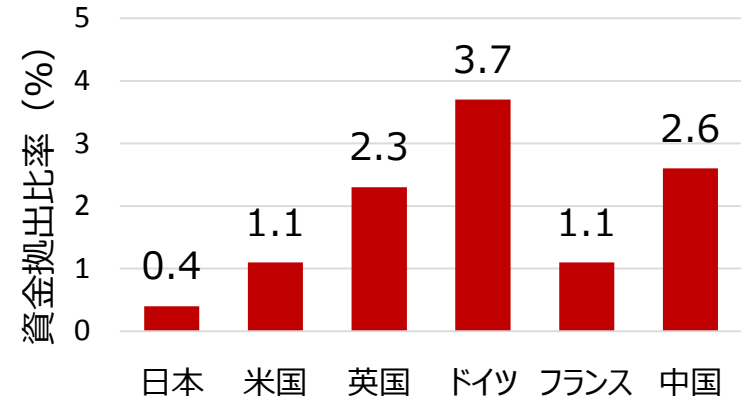
日本の大学における産学連携のための機能整備は遅れており、ライセンス収入は未だ低い水準。2016年度の日本の大学のライセンス収入が45.3億円であるのに対して、米国は約2,800億円。

日米の大学のライセンス収入比較



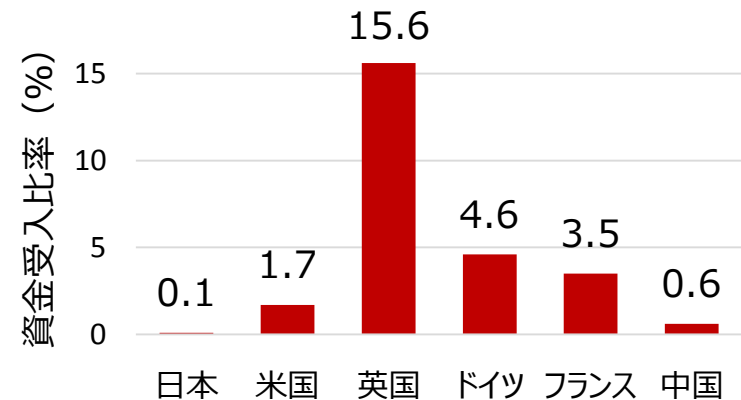
出所: 大学技術移転サーベイ 2017年度版 (2018年度発行)
<https://unitt.jp/survey/patent/>

企業が負担する研究開発費のうち 大学に投じられる金額の割合



出所: 科学技術指標2018から算出

外国から大学への資金受入比率の比較



出所: 経済産業省 我が国の産業技術に関する研究開発活動の動向
 -主要指標と調査データ-第17.3版 を基に内閣府にて作成